

10月29日(木)・30日(金) 会場:学術交流会館小講堂

第8回セラミド研究会学術集会

主催:セラミド研究会／共催:さっぽろヘルスイノベーション“Smart-H”／
 実施責任者:先端生命科学研究院附属次世代ポストゲノム研究センター 特任教授 五十嵐靖之

第8回セラミド研究会学術集会を10月29日(木)・30日(金)の2日間開催しました。全体の参加者約140名のうち、大学や企業研究所から100名、学内からは学生20名を含む約40名が参加し、活発な討論が繰り広げられました。

今回の海外招待講演では、皮膚バリア機構研究の第一人者であるカリフォルニア大学サンフランシスコ校のYoshikazu Uchida博士と、毛髪成長とスフィンゴ脂質に関する研究をしている韓国清洲大学校のYoung Moon Lee教授に講演いただきました。そして、ランチョンセミナーでは、S1P受容体の構造解析に関して、テネシー大学のGabor Tigyi教授に講演いただきました。また、JSC Award受賞講演は、中部大学の芋川玄爾先生がセラミドと皮膚バリアの30年間の研究をまとめて話され、聴衆に感銘を与えました。

国内招待講演では、皮膚のアシルセラミドに関する酵素系の研究(薬学研究院 木原章雄教授)、真菌エンドセラミダーゼに関する研究(九州大学 伊東 信先生)、上皮-間充織変換での脂質の役割(九州大学 池ノ内順一先生)、ノンターゲットリポドミクスの開発の将来展望と現状(理化学研究所 有田 誠博士)、SM小腸吸収機構(株式会社明治 藤森雅史先生)などの5題と、さらに一般演題17題の講演がなされました。また、第6回JSC Awardには本学薬学研究院の木原教授、JSC若手賞には先端生命科学研究院の酒井祥太特任助教が選ばれました。

初日夕方にアスペンホテルで開催された懇親会には50名以上が参加し、情報交換や共同研究の話し合いが積極的に行われました。次回は来年10月末に東京ユビキタス協創広場CANVASで開催されます。また、この会の講演や討論の詳細については、食品化学新聞のセラミド特集号(11月26日号)で詳しく報道されました。



講演会の様子



質疑応答の様子



JSC賞を受賞した木原教授の様子(右側)

11月3日(火・祝) 会場:保健科学研究院

ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ

主催:保健科学研究院／実施責任者:保健科学研究院 教授 浅賀忠義

保健科学研究院の公開講座は、「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」というテーマのもと、4名の講師が専門分野の紹介を行い、66名が参加しました。

第1限目は、青柳道子講師が「最後まで住み慣れた家で過ごすために」と題して、高齢者になっても病気があっても、自宅で暮らし続けられることを支えるケアについて講演しました。第2限目は、石津明洋教授が「病原菌と戦う好中球の必殺技—好中球細胞外トラップ」と題して、病原菌と戦う好中球について、好中球の細胞外トラップによる殺菌メカニズムとその障害について解説しました。第3限目は、八田達夫教授と岸上博俊助教が「超高齢化社会へ向けた車いすデザインの提案」と題し、超高齢化社会への突入による車いす利用の増加に伴い、今よりもっと楽に座れて動きやすい車いすを提案しました。

講演者は、サステナビリティ・ウィーク2015のテーマである「札幌サステナビリティ宣言2008を再確認する」から、「大学は持